



平成27年12月14日

住宅のストーブ火災に注意を!!

～ 例年、冬季にはストーブ火災が急増します ～

例年、冬季にはストーブに起因する火災が多発しています。寒さも厳しくなり、ストーブの火災が増加する季節を迎えたことから、東京消防庁では出火防止について注意を呼びかけています。また、平成23年3月に発生した東日本大震災でも、電気ストーブに起因した火災が9件発生しており、その取扱いについても併せて注意を呼びかけています。

※ 住宅とは、戸建住宅及び共同住宅、寄宿舍などの居住のための建物をいいます。

※ ストーブとは、電気ストーブ（カーボンヒータ、ハロゲンヒータ、温風機を含む）、石油ストーブ（石油ファンヒータ、ガソリンストーブを含む）、ガスストーブ（ガスファンヒータ、簡易型ガスストーブを含む）をいいます。

最近10年間の火災状況

○ 発生状況

最近10年間（平成17年から平成26年。以下同じ。）に発生した住宅のストーブ火災は1,372件で、そのうち1,199件は1月から3月までと11月、12月の5か月に発生しており、9割近く（87.4%）を占めています。

○ 電気ストーブが7割以上

ストーブの種類別にみると、電気ストーブが974件で7割以上（71.0%）を占めています。以下、石油ストーブ（281件：20.5%）、ガスストーブ（117件：8.5%）の順で発生しています。

○ 死傷者の状況

最近10年間に発生した住宅のストーブ火災による死傷者は、死者が101人、負傷者が816人発生しています。

死者101人の8割以上（81.2%）を高齢者が占めています。

○ 主な出火の原因

電気ストーブでは、寝具類や衣類が接触して出火した火災、石油ストーブでは、給油の際にこぼした灯油に引火した火災、ガスストーブでは、漏れた燃料ガスや近くに置かれたスプレー缶が破裂し、噴出したLPガスに引火した火災などが多く発生しています。

○ 火災を防ぐために

ストーブの火災は、多くが使用者の取扱い不注意により発生しています。取扱説明書の注意事項をよく読み、安全に取り扱いましょう。（別紙：火災を防ぐポイント参照）

○ 地震による出火

平成23年3月に発生した東日本大震災にでは、電気ストーブに起因した火災が東京消防庁管内で9件発生し、地震により発生したと思われる火災のおよそ4分の1を占めています。使用中の電気ストーブに可燃物が落下、接触したもの、落下物によりスイッチが入り出火したものなどがありました。

※ 詳細は、別紙資料を参照してください。

問合せ先

東京消防庁（代） 電話 3212-2111
予防部調査課 内線 5066 5068
防災部防災安全課 内線 4195 4196
広報課報道係 内線 2345～2350

別紙資料

表1 最近10年間の住宅におけるストーブ火災の発生状況(平成17年～平成26年)

	件数	死者	負傷者	内 訳								
				電気ストーブ			石油ストーブ			ガスストーブ		
				件数	死者	負傷者	件数	死者	負傷者	件数	死者	負傷者
17年	163	15	95	105	9	47	34	3	30	24	3	18
18年	147	6	121	96	4	83	39	2	30	12	-	8
19年	120	11	84	81	9	52	29	1	23	10	1	9
20年	146	13	109	106	10	61	30	3	39	10	-	9
21年	138	18	68	99	11	39	30	5	23	9	2	6
22年	112	6	56	84	3	36	17	2	14	11	1	6
23年	143	6	67	103	4	40	27	2	17	13	-	10
24年	145	8	68	106	6	42	28	1	19	11	1	7
25年	136	10	80	99	9	47	27	1	23	10	-	10
26年	122	8	68	95	7	48	20	1	19	7	-	1
合計	1,372	101	816	974	72	495	281	21	237	117	8	84
27年	86	6	39	65	3	21	13	-	13	8	3	5

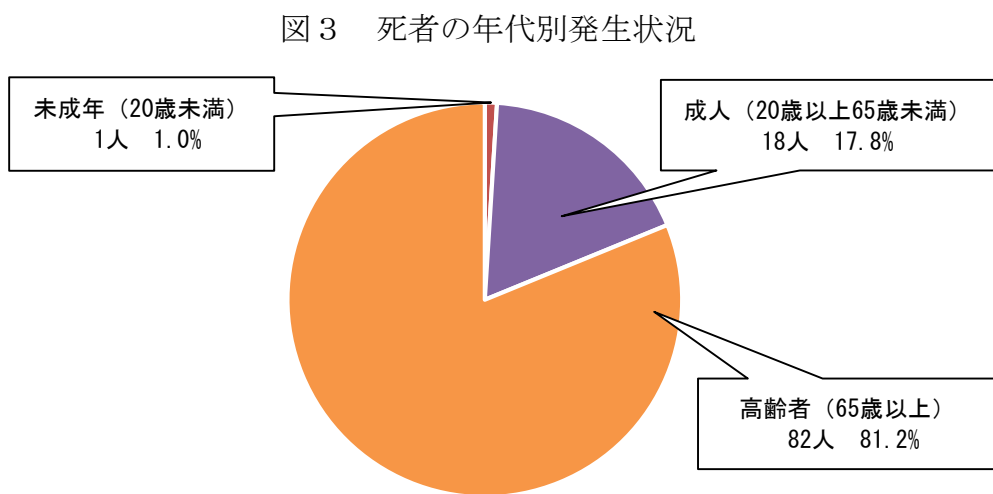
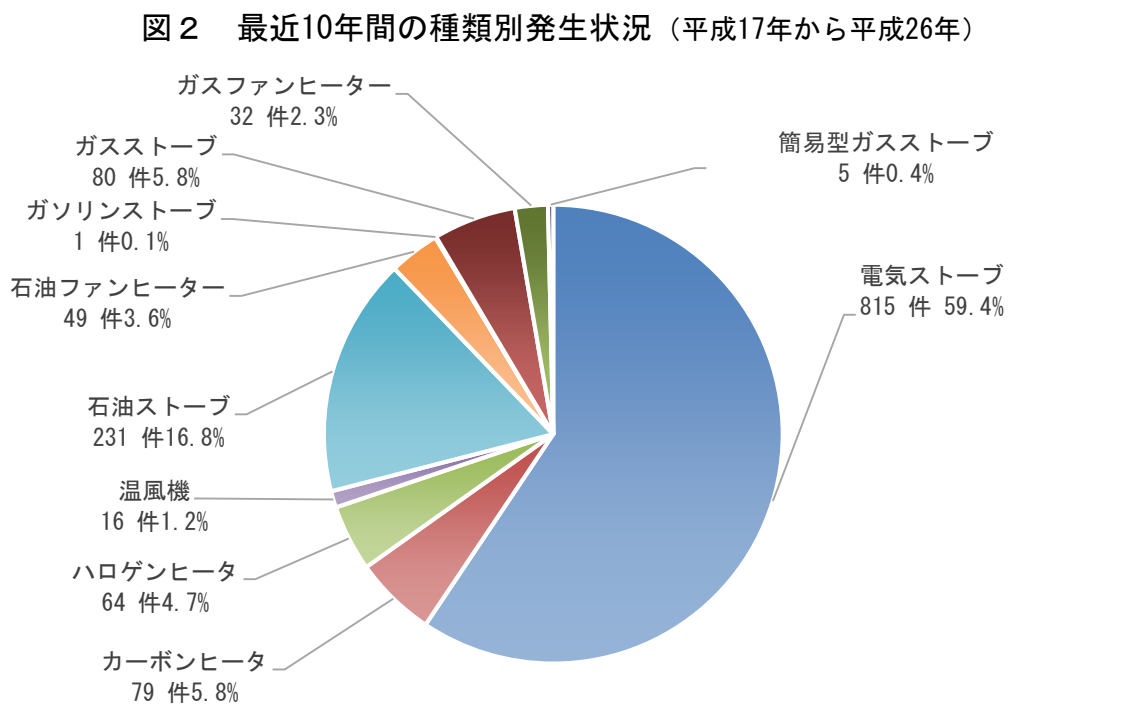
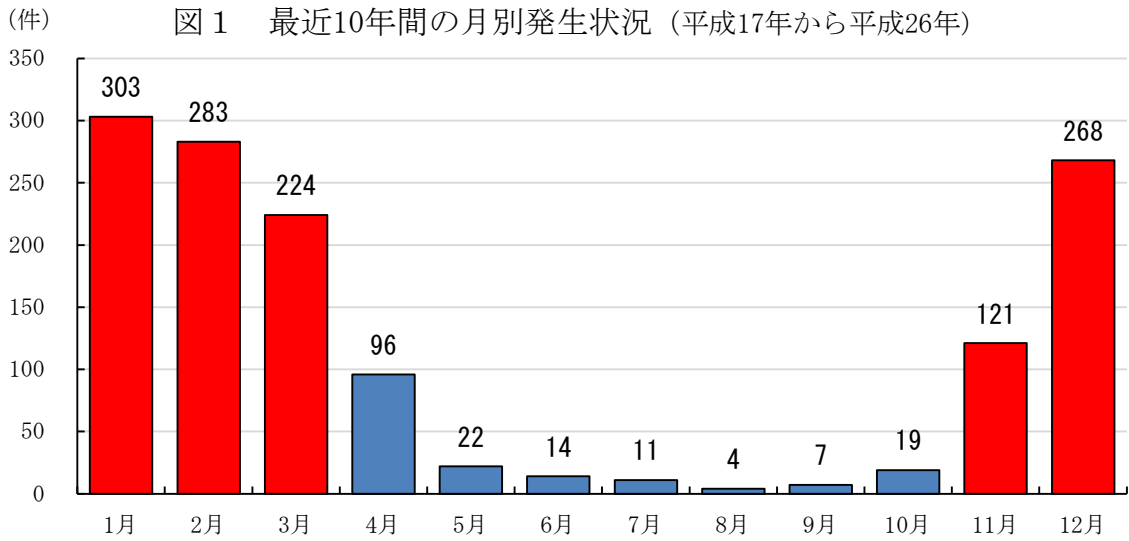
※ 平成27年の数値は、12月9日現在の速報値です。

表2 ストーブの種類別主な出火原因(平成17年～平成26年)

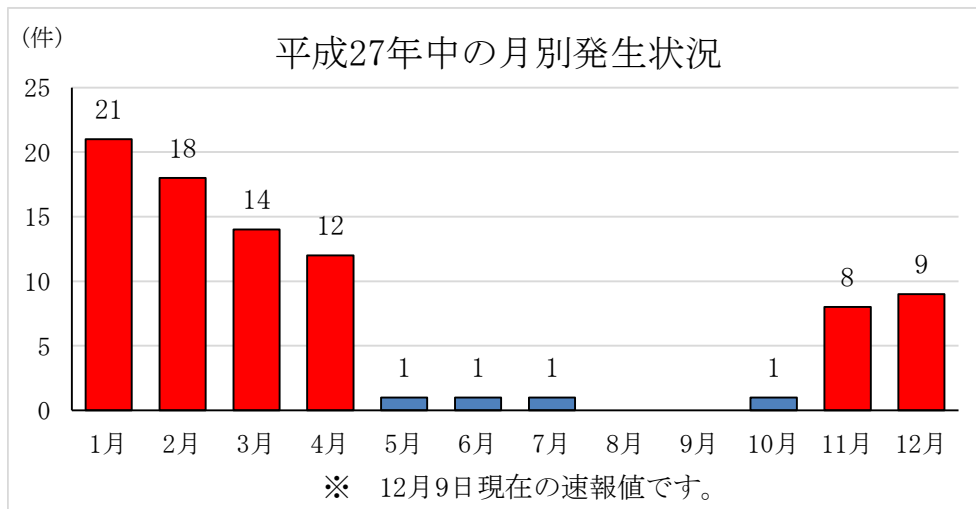
	布団、衣類などが接触	漏れたガス、こぼした灯油に引火	洗濯物などが落下	火を消さずに給油	布団などが近すぎて発火	タオル、衣類などを置く	誤ってスイッチが入る、入れる	電源コードが短絡	ストーブが転倒	ストーブが可燃物に接触	炎が大きくなり可燃物に接触	コードの接続部などが緩み発熱	コードが判断線し発熱	その他・不明	計
電気ストーブ	642	4	73	-	49	34	32	22	20	18	-	16	16	48	974
石油ストーブ	29	67	26	63	6	16	1	3	3	3	14	-	-	50	281
ガスストーブ	44	45	11	-	3	4	-	-	-	-	5	-	-	5	117
合計	715	116	110	63	58	54	33	25	23	21	19	16	16	103	1,372

表3 年代別死者の状況(平成17年～平成26年)

	電気ストーブ	石油ストーブ	ガスストーブ	計	割合
未成年(20歳未満)	-	1	-	1	1.0
成人(20歳以上65歳未満)	16	1	1	18	17.8
高齢者(65歳以上)	56	19	7	82	81.2
合計(人)	72	21	8	101	100.0
割合(%)	71.3	20.8	7.9		



平成 27 年中発生状況



平成 27 年中の機種別死者の発生状況

	電気ストーブ	石油ストーブ	ガスストーブ	計
未成年(20歳未満)	-	-	-	-
成人(20歳以上 65歳未満)	1	-	2	3
高齢者(65歳以上)	2	-	1	3
合計(人)	3	-	3	6

※ 12月9日現在の速報値です。

火災を防ぐポイント

1 ストープの周囲は、常に整理整頓を

布団、衣類、雑誌などの可燃物がストーブの近くに置いてあると、ちょっとしたはずみでこれらの可燃物がストーブに接触し出火する恐れがあります。近くにスプレー缶を置いておくと、ストーブの熱で缶が破裂し、漏れたガスに引火します。

2 寝るとき、その場を離れる時は火を消す習慣をつける

寝返りなどで布団がストーブに接触して火災になる恐れがあります。寝る時やその場を離れる時は、火を消す習慣をつけましょう。

3 燃えやすい物の近くでストーブを使用しない

カーテンのそばで使用したり、ストーブの上や近くに洗濯物を干したりすると、ストーブに触れて火災になる恐れがあります。

4 給油は火を消してから行う

給油中にこぼした灯油に引火する恐れがあります。給油は火が完全に消えたのを確認してから行いましょう。また、カートリッジタンクはキャップが完全に閉まっているのを確認してから装着しましょう。

5 使用しない時は電源プラグをコンセントから抜いておく

電気ストーブやファンヒータは、何かの拍子に誤ってスイッチが入ってしまい、近くに可燃物があると出火する恐れがあります。

6 異常を感じたら使用を中止する

ストーブ本体の異常から出火する火災も発生しています。使用中に異常を感じた場合は直ちに使用を中止し、製造メーカーや販売店等に相談しましょう。また、日頃からストーブ本体や電源コード、ガスホースなどに異常がないか点検してから使用しましょう。

7 地震に備えて

東日本大震災で発生し電気ストーブの火災発生状況をみると、使用中の電気ストーブに可燃物が落下、接触したり、落下物によりスイッチが入ったことにより出火しています。

地震時における出火を防止するためにも、ストーブの周囲は常に整理整頓するとともに、電気ストーブや石油ファンヒータなど電気を使用する機器を使用しない時は、電源プラグをコンセントから抜いておくことが必要です。

《取扱いに十分注意して、ストーブの火災を防ぎましょう！！》

火災事例

1 「布団が接触して出火した火災」(電気ストーブ)

(平成 27 年 12 月 4 時ごろ 江戸川区)

この火災は、共同住宅 2 階居室内で、電気ストーブをつけたままベッドで就寝し、ずり落ちた掛布団が電気ストーブに接触し、出火したものです。

ベッドで就寝中の居住者(男性 40 歳代)が臭気で目を覚まし、部屋の明かりをつけると、電気ストーブ付近から炎が上がっているのを発見し、その後、住宅用火災警報器が鳴動しました。居住者はペットボトルの水をかけて消火した後、携帯電話で 119 番通報しました。

写真 1-1 ストーブと掛布団の状況



写真 1-2 掛布団の焼損状況



2 「漏れた灯油に引火した火災」(石油ストーブ)

(平成 26 年 2 月 17 時ごろ 葛飾区)

この火災は、共同住宅 2 階居室で、給油したタンクキャップが完全に閉まっていなかったため、装着しようとした際に灯油が漏れてストーブにかかり、出火したものです。行為者(女性 70 歳代)はストーブの火を消していませんでした。

行為者の夫が火災に気づき、座布団や毛布をかけて消火しようとしたましたが消しきれず、騒ぎで駆け付けた近隣者が持ってきた消火器 2 本で消火しました。

写真 2-1 毛布等の焼損状況



写真 2-2 ストーブの状況



3 「地震による落下物によりスイッチが入り出火した火災」(電気ストーブ) (平成23年3月 15時ごろ 三鷹市)

この火災は、住宅2階の居室で、地震により本棚から落ちた本が電気ストーブの上に落下してスイッチが入り、電気ストーブ周囲の本などに着火し、出火したものです。

近隣店舗の従業員は、きな臭いにおいを感じ外へ出ると、火元建物2階から煙が出ているのを発見し、店の電話で119番通報しました。

火元居住者(男性70歳代)は1階にいましたが、火災に気づかず、近隣者に知らされて屋外に避難し、怪我はありませんでした。

写真3-1 出火箇所の焼損状況



※ ○は、電気ストーブの位置。

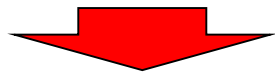
写真3-2 電気ストーブの焼損状況



※ ○は、電気ストーブの上部スイッチ

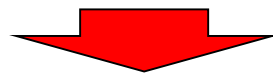
資料映像

- 1 点けたままの電気ストーブに掛布団が接触して出火



2 石油ストーブに洗濯物が落下して出火

東京消防庁



東京消防庁

